ISSN　0917－4508

NANZAN UNIVERSITY

南山大学図書館報

ΔΥΝΑΜΙΣ

～デュナミス～

No.58　2010.10.1

CONTENTS

1 〈いま・ここ〉を読む　人文学部教授　図書館長：細谷　博
2 学部長おすすめの本　総合政策学部教授：松戸 武彦
4 データベース紹介 ～GVRLを使ってみよう！　電子情報係：黒田 陽子
6 図書館のナイスな使い方！　閲覧・参考係
8 名古屋図書館　配架場所の変更
9 図書館研修生を体験して　図書館研修生：粥川 知美、柴田 英美、戸田 安紀
10 資料紹介　～秋の夜長にショパンはいかが？～　図書選定委員：伊藤 京子
12 秋学期図書館利用講習会のお知らせ
南山大学図書館　秋の企画展のお知らせ
編集後記

〈いま・ここ〉を読む

細谷　博

世界はめまぐるしく動いている、だが、そのただ中の〈いま・ここ〉にあって、自分は動かずに止まっている、あるいは方向を見失い停滞している、と感じることがあるだろう。あるいはまた、自分は盛んに動いている、様々な心身の活動を続けているのに、それを取り巻く世界は自分とはまったく無関係にただただ広がっているだけだ、という気持ちになることもあるだろう。もちろん、そのどちらもが本当であり、またどちらも現実の一面にすぎないものだ。

現代社会の変化のスピードはいまや幾何級数的に増加し、すなわち人の想像をはるかに超えるものとなったといわれるが（今、社会の変化の総体を本当に把握している人間など果たしているのだろうか）、社会の変容が人間の生活におよぼしているはずの様々な影響をいざ具体的に言い当てるとなると、それは情報化社会の今日にあってもなお（あるいはその「情報化」によって却って）そうたやすくはないだろう。さらには逆方向の、個人の動きが社会の変化に与えているはずの影響に及んでは、そもそもいったい何から考えたらよいのか、という見極めさえ困難と見えるのである。

変化はたしかにあるのだ。だが、そのすべてを知ることも、ましてやそれを解明することも完全にはできない――そうした状況の下で我々は、なおも〈いま・ここ〉にあるのである。では、そうした人間が向かうべき場所はいったいどこか？図書館はそのような場所の一つである。

サルトルの小説『嘔吐』に出てくる「独学者」は、図書館の蔵書すべてを、著者名Aから始めてZへと向かって読破しようとしている人物である。つまり彼は、世界について書かれた言葉の集積をすべて呑み込んで、あらためてこの世のひろがりと〈いま・ここ〉の自分をつなごうとしているのだ。まさに無謀であり、また同時に、この上なく賢いともいえる（百科事典や辞書の項目を次々と読むことはすぐれた勉強法だ）その「方法」は、今すぐ誰にでも実行可能である。

インターネットによる接続を含めれば、現在の図書館は想像を超えた世界へとオンラインでつながり、それゆえにこそ、「独学者」の方法はすでに数量的に完遂不可能となりつつも、さらに、めくるめく多様性に出会いたい、というあくなき欲求となって、我々を誘惑し続けているのだ（ネットサーフィンを続ける若者も一人の独学者――憑かれた者――たりうるのである）。

だが、そうした〈限りなく知ること〉への欲望をかかえつつ、なおも我々は何らかの制御された目的を持ち、あるいは、目的を求めて図書館へと向かうのである。まさに、途轍もないひろがりのただ中にあって〈いま・ここ〉をあらためて見出すために、そしてまた、それを手放すために。図書館という入口はつねに〈向こう側〉へと開かれているのだ。

（HOSOYA, Hiroshi：人文学部教授　図書館長）

学部長おすすめの本

日常的思考の恐ろしさを教えてくれた一冊

『支店長はなぜ死んだか』上前 淳一郎著
（文春文庫　1982年）請求番号081K/2429/v.0-1

松戸　武彦

この本を私が初めて読んだのは、1982年で、文庫版の第1刷であった。単行本はすでに1977年に出版されていたので一読した後、もっと早く読んでおくのだったと悔やんだ記憶と、社会学の研究者としてこの本の存在を知らなかった自分を恥じた記憶がある。しかし、同時に文庫版に載せられた柳田邦男氏の一文（新潮社刊『事実の時代に』より転載となっている）を併せて読むことができたことに幸運を感じた記憶も残っている。なぜなら、柳田氏の一文の中にある次のような記述は、私の読後感を端的に表してくれていたからである。つまり、この本の表題でもある、文章の初出誌である、『文藝春秋』1977年１月号を彼が自宅で手にした時、一読、雑誌を離すことができなくなり、読みながら階段を上り、部屋に入ってからも、ソファーに坐ることを忘れていた、というものである。私も、本文を読んだあと、深く心の底に何かが突き刺さったという感覚に捉えられた。

今から思い返すならば、それは、つぎの二つの感覚、あるいは、思考と言っていいだろう。一つは、ジャーナリズム論としてこのような文章を書くことが可能なのかという「不思議感」と言っても良い感覚である。ジャーナリズム内部にいる人間が、ジャーナリズムのあり方を揶揄や断罪ではなく、その構造性にまで迫って批判すると言う作業がどれほど難儀なことかは、多少の感受性を持つものならば容易に感知することができることである。その意味では、この本に収録されている「支店長はなぜ死んだか」という論考の元になっている、朝日新聞記者（当時）の疋田桂一郎氏のレポートが持つ価値も忘れてはならない。

いずれにせよ、昨今あまたある、為にするような新聞批判論に比べて、ジャーナリスト志望の若い人々にとって必読の書であることは間違いない。

もう一つは、社会学研究者としての私の思いである。実は、私は、この論考を担当科目である「社会学概論」の中で重要なトピックスとして扱っている。それは、マスコミュニケーション論の材料としてよりも、人々がどのようにして「社会」を造っているのか、あるいは、「社会を造る言説」とはどのような性質をもっているのかという論題を扱う絶好のテキストとしてである。さらに、一歩踏み込んで言うならば、我々の善意とはどういうものであり、それが極めて貴重なものであると同時に、どれほど残酷なものかを我々の前に開示してくれる素材としてである。

新聞記事となった、「事件」の概略は、大手都市銀行の、支店長昇格目前の行員が、次女を餓死させたという、一見センセーショナルなものである。実際、学生達にこの話をする時、ここまでのところで「どのような事件がおきたと思うか」と問いかけると、大半の学生はエリート銀行員の家族内虐待事件の話だという反応が返ってくる。この反応自体、社会学では、ドメスティ

ク・バイオレンスの話がどこかでなされるのでないかという、「期待」あるいは「予想」を反映した答えで、社会学的に興味深いものである。ここで、我々は、すでに社会現象を「見たいように見る」、あるいは、「すでにできている枠組みに合わせて解釈する」という問題に直面しているといえる。

しかし、記事自体を読む段にいたって、この印象は消える。つまり、餓死した次女は、重度の「知的障がい」の二歳児であることがわかり、行員は、妻の出産もあって一人で次女の面倒をみている最中に餓死させた「事件」であることが判明するのである。

そして、我々は、ここで、「日常的思考」の落とし穴に落ちるのである。つまり、この記事を書いた記者や取り調べをした係官と同様に、この「事件」をこの外面的相貌から「知的障がいのかわいそうな子どもを持った親が、将来を悲観して子殺しをおこなった」と解釈するのである。そして、この解釈には、つぎの2つの補足が必ずついている。つまり、自分が親として、このような状況になった時に、「将来自分が死んだ後、この子の面倒は誰が見るのか」という普遍的で、日常的な「思い」をだれでもいだくだろうという思考であり、もう一つは、エリート行員が「足手まといになっている次女を手にかけたのでないか」という疑いである。この二つは、原理的に別のものであるが、人々の日常的思考の中では、ない交ぜになって、行員への、同情と断罪の併存した感情に帰結していくと考えられる。

特に前者は、「私も知的障がいの子どもを持ったら、このようなことを起こしかねない」という「自然」な思考に裏打ちされ、この出来事の解釈として確立され、それを元に、「罪は罪として認め、情状はできるだけ考慮する」という、これも日常的思考にながれていく。そして、この「善意」が我々の社会をどのように蝕んで行くのかを「支店長はなぜ死んだか」は、明らかにしてくれていると私は思っている。

実際、この出来事の関係者に、悪意のある人物はほとんど出てこない。商業的マスコミの性質からして、記者が多少、断罪的な傾向を示しているが、「心をオニにして」と言う表現は「オニのような父親」を連想させるが、それでもなお、「私もそうするかもしれない」という憐憫のニュアンスを蔵していて、この点で同情的である。取り調べ係官でさえも調書を読むならば、罪を告発する警官の立場と共に、このようなことを「しでかした父親」に対する同情が窺える。そして、問題なのは、こうした憐憫や同情がステレオタイプ化した言葉と状況認識の中で表明されている点なのである。

そして、我々は、そのような「善意」のもとに最終的に、行員である父親を死に追いやったのである。

最近、新聞の紙面構成の中に、新聞批評を組み込む記事を見かけることがよくあるようになった。しかし、その多くは、記事の踏み込み不足を批判するものや取り上げる記事の傾向性に焦点を当てたものが多い。それ自体は確かに、意義あるものであるが、本書のような社会と人間のコミュニケーションの構造と特質に肉迫する論考は、本書以降ほとんど見ることがない。その意味で、本書はいまでも私の社会学にとって最も貴重なテキストの一つであり続けている。

（MATSUDO, Takehiko：総合政策学部教授）

データベース紹介

GVRLを使ってみよう！

今回は2010年２月より利用可能となったGale Virtual Reference Library（以降GVRL）をご紹介します。GVRLは分厚く重い様々な分野のレファレンス（百科事典等）をインターネット上の本棚に並べたものです。その本棚にアクセスしてキーワード検索するだけで、本棚に並んでいる全てのレファレンスを横断検索し、該当するページを画面に表示することができます。

GVRLの特色

１．キーワード検索

所蔵タイトル全てを横断検索できます。　（2010年６月現在６タイトル）

- ・Encyclopedia of Philosophy　〈哲学百科事典〉
- ・Encyclopedia of Religion　〈宗教百科事典〉
- ・Encyclopedia of World Poverty　〈世界の貧困百科事典〉
- ・International Encyclopedia of the Social Sciences　〈社会科学国際百科事典〉
- ・Schirmer Encyclopedia of Film　〈Schirmer映画百科事典〉
- ・U･X･L Encyclopedia of U.S. History　〈米国史百科事典〉

２．同時アクセス無制限

インターネット環境があれば、人数や場所を問わず24時間利用可能です。

※学外からはSSL-VPNサービスを利用して接続できます。

３．翻訳機能

検索した記事を11カ国語に自動翻訳（機械翻訳）できます。

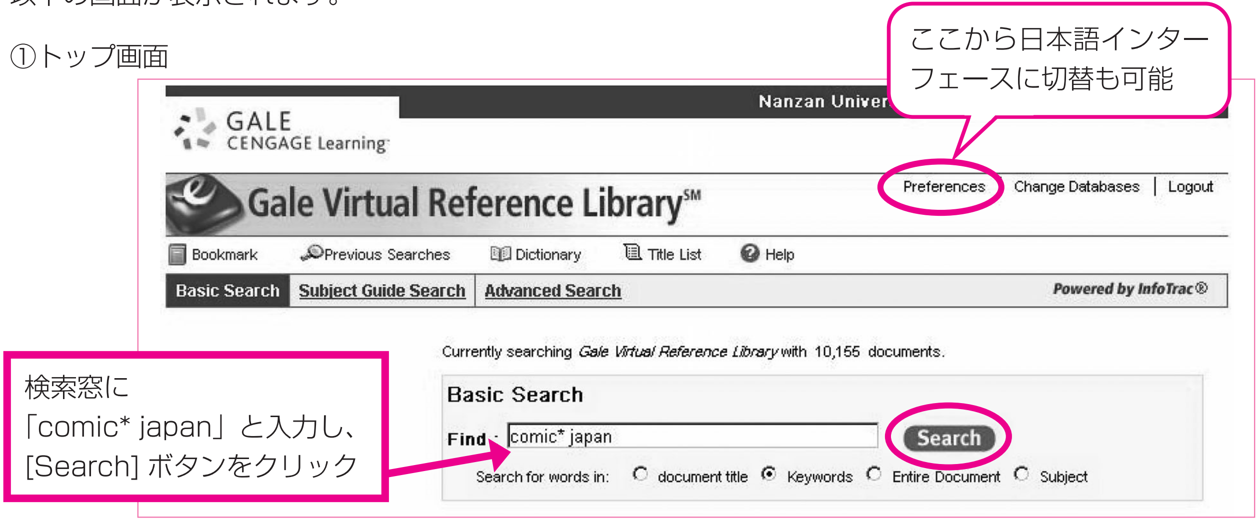
〈対応言語〉日本語、中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、
スペイン語、ポルトガル語、アラビア語、ポーランド語、ロシア語

基本検索（Basic Search）

「漫画と日本」というテーマでの検索例をご紹介します。

図書館Webページ〈http://www.nanzan-u.ac.jp/TOSHOKAN/〉の「電子ジャーナル・DB」から「名古屋図書館（または瀬戸図書館）」→「Gale Virtual Reference Library」へ進み、ログインすると以下の画面が表示されます。

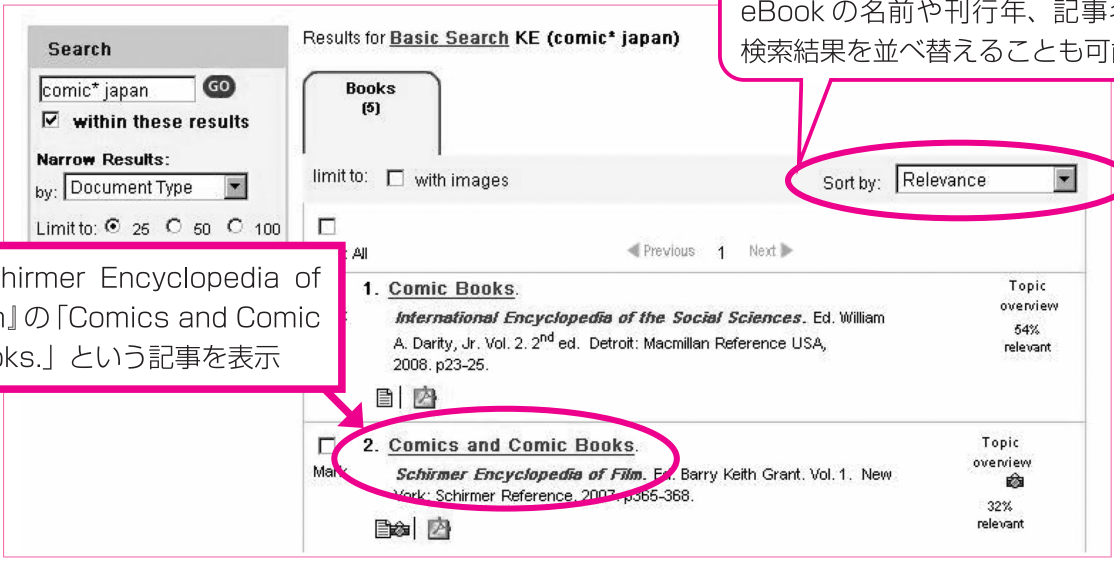
①トップ画面



Point　末尾に「*」を付けると、comic以外にcomics、comicalなども検索対象となります。

②検索結果一覧

Relevance（関連度順）の他に eBook の名前や刊行年、記事名で検索結果を並べ替えることも可能



『Schirmer Encyclopedia of Film』の「Comics and Comic Books.」という記事を表示

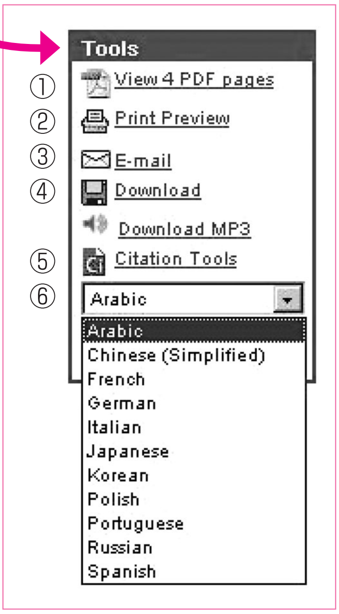
③記事詳細

本文中の検索語が赤くハイライトされる

Another nation whose film culture is inextricably linked to its **comics** culture is **Japan**. The relationship between *manga* (Japanese **comic** books) and *anime* (Japanese animation) is very close, with popular **comic** books regularly transformed into animated series made for film and television, and popular films often re-created as **comic** book series. Exemplary in this area is the work of Osamu Tezuka, the most celebrated cartoonist in **Japan**, whose many works to have been adapted to film include *Hi No Tori* (*The Phoenix*, 1978), *Shin Tetsuwan Atom* (*Astroboy*, 1980), and *Kimba the White Lion* (1966).

Tools の説明

①PDF ファイルを表示
②印刷プレビュー
③E-mail 送信
④ダウンロード
⑤引用書式の生成
⑥自動翻訳（11カ国語）

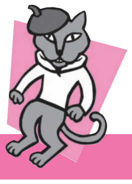


図書館に並ぶ参考図書から、多様な情報を一度に探し出すことは簡単ではありません。GVRL のキーワード検索は、eBook の記事本文の全単語が対象となるため、意外な分野から関連する情報が見つかることがあるかもしれません。Google や Yahoo! の前に GVRL で検索して、信頼性の高い情報を課題や研究に活用してください。

（KURODA, Yoko：電子情報係 黒田 陽子）

図書館のナイスな使い方！ ①データベースはこう使う

みなさんは日頃どのように情報収集をしていますか。
情報を効率良く得るコツは、あらかじめ整理された情報の中から探すことです。
何かを調べるとき「まずはインターネットで」という方が多いかと思いますが、欲しい情報を思うように得ることができず、困った経験もあるはず。そんな方は、是非データベースを活用してください。
今回は図書館員オススメの「知っておくと便利なデータベース」をご紹介します。
データベースを使いこなして情報の達人になりましょう！
※利用する前に、各データベース Top ページの注意書をよく読んでください。



データベースを使うメリット

1 法律・経済・心理・教育などテーマ毎に一定の規則に従って情報収集されているため、ムダなく、効率的に情報を集めることができます
2 情報の出所が明確なため、情報の信頼性という面からも安心してレポート作成に使用できます
3 インターネットでは探すことができない・得られない情報を入手できます

■ LexisNexis（レクシスネクシス） at lexis.com（レクシス）.

【オススメ度】世界各国のビビッドな情報を得たい人に　☆☆☆

世界最大級の法律関連データベースとして、世界各国の法令・判例・特許・法律関連文献などをオンラインで提供している LexisNexis at lexis.com. でも、実はそれだけじゃないんです！
法学関係以外にも各国のニュースや企業・産業情報など豊富なデータが収録されています。
例えば、こんな情報を調べることができますよ！

●日本のニュースについて、海外メディアはどんな風に伝えているの？
●米国、カナダ主要 TV、ラジオ番組の生原稿を見たい！（例：BBC、CNN、ABC、CBS、Fox 等）
●世界中の主要新聞を読みたい！
●海外の産業専門誌、通信記事、雑誌などの記事や各国企業の情報、産業情報を知りたい！
ID/パスワードの利用申請をすれば、学外からでも簡単にアクセスできます。（閲覧・参考係　富増）

■日経 BP 記事検索サービス

【オススメ度】就職活動中の人に　☆☆☆
経済・経営学部の人に　☆☆☆

日経 BP 社が発行するビジネスをはじめとする様々な分野の専門誌約40タイトルの雑誌記事データが収録されています。本学で購入していない雑誌も、このデータベースを使うことによって読むことができます。
また、就職活動中の方は、志望している企業名を入力することで、その企業に関連した役立つ情報をまとめて入手することができます。

就職活動をしている皆さんは、エントリーシートにどのような志望動機を書いていますか。志望動機を明確にするには、応募先の企業について深く知ることが必要です。
経営方針などの企業情報は企業の web ページから入手できますが、「日経 BP 記事検索サービス」を使って、他の人とは違った、もう一歩踏み込んだ企業研究をしましょう。
また、就職活動以外にも、ビジネスに関連したレポート課題の情報収集に幅広く活用することができます。（閲覧・参考係　加藤）

■ SourceOECD

【オススメ度】卒論・修論・博論を控えている人に　☆☆☆

卒論や修論・博論の作成に大活躍！！統計データベース SourceOECD。
統計データの収集で頭を悩ませているアナタ、SourceOECD を使ってみてはいかが？日本を含む OECD 加盟国の統計データを複数国・複数項目・複数年度同時に指定して一括検索できるのは Source OECD ならでは。しかも、検索できたデータを即グラフ化し、データを CSV 形式でダウンロードし、Excel で加工することも可能など、卒論・修論等のデータ収集に便利なこと、この上なし。統計の分野も、農業、金融・経済、教育、労働、貿易、科学技術、通信など、広範囲で使い出があります。たとえば、開発途上国への先進国からの開発援助額、学校設置数などの国際比較をするような場合にうってつけです。さらに、SSL-VPN 接続をすれば、学外からの利用も可能です。国際的な統計データをまとめて入手するなら、まず SourceOECD です。（閲覧・参考係　紅露）

■ CiNii（サイニィ）

【オススメ度】初めてレポートを書く人に！　☆☆☆
文献収集のステップアップに！　☆☆☆

レポートや卒業論文を書く際に必要となる「参考文献」。図書だけではなく、雑誌論文も利用するとより質の高いレポート等が出来上がります。
でも、雑誌論文を探す時、どんな雑誌に、どんな論文が載っているのか、探すのが大変ですよね。そこで、ぜひ利用してもらいたいのが、「CiNii」。
CiNii でキーワード検索すると、日本の雑誌記事・論文の詳細情報を得ることができます。また、全体の 4 分の 1 の論文は検索したその場で本文を入手することができるので、とても使い勝手がいいデータベースです。
検索した論文のなかには、その論文を執筆する際に引用した論文（参考文献）や、その論文を引用して書いた別の論文（被引用文献）が表示されることもあり、新しい文献を見つけ出すきっかけにもなります。（教育研究支援係　今井）

図書館のナイスな使い方！ ②視聴覚ライブラリーはこう使う

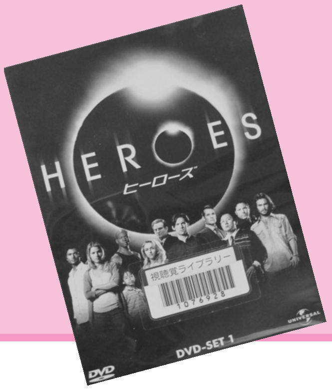
資料紹介

リフレッシュ、発見、異文化情報、語学学習など、紙面や文字だけの情報ではなく、映像や音声からもいろいろな情報を得ることができますよ。

「マルタのやさしい刺繍」　770F/1743
主人公マルタは80歳。スイスの伝統的な小さな村で繰り広げられるドラマですが、どんな村なんでしょう！音声はスイスドイツ語です。

語学学習テク

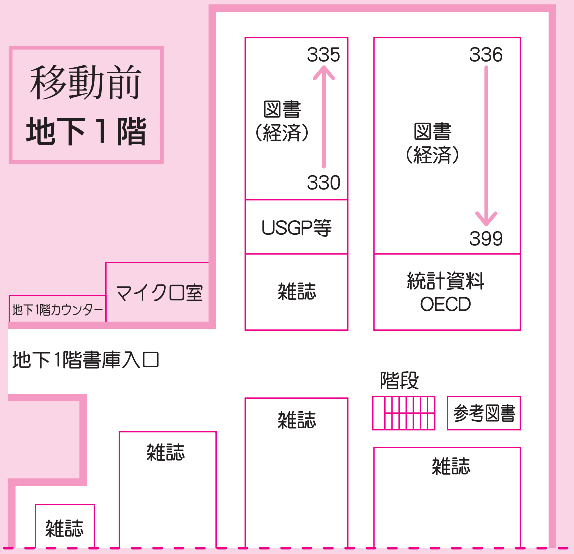
映画や海外ドラマの DVD を
　外国語音声＋日本語字幕
　外国語音声＋外国語字幕
　外国語音声＋字幕なし　で利用して、
語学スキルをブラッシュアップ！



名古屋図書館　配架場所の変更

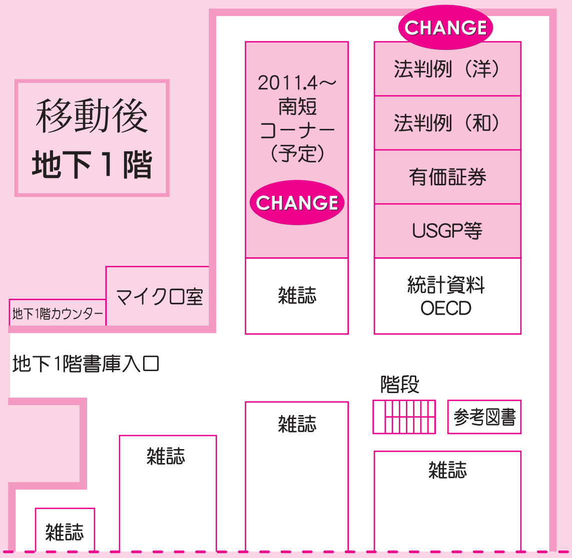
2011年４月、南山短期大学図書館所蔵の資料が名古屋図書館にやってきます。
移動冊数は約４万冊、地下１階書庫内に南短コーナー（仮称）を設置する予定です。
そのため、地下１階書庫から地下２階書庫にかけて蔵書を大移動しました。

移動前
地下１階

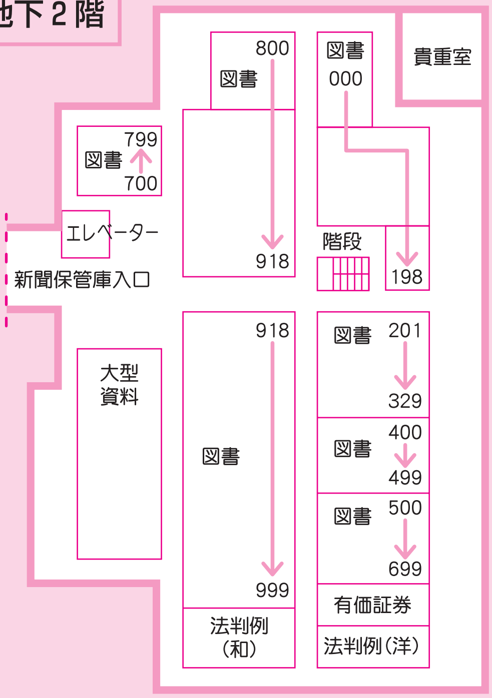


地下２階書庫の法判例（和・洋）、有価証券を地下１階に移動！

移動後
地下１階

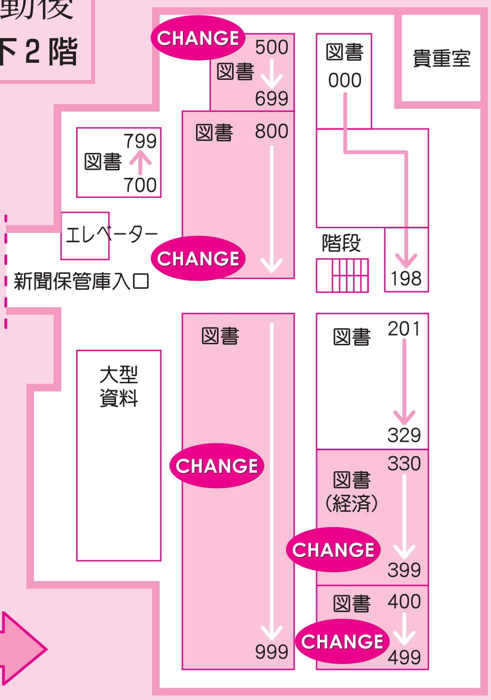


移動前
地下２階



地下１階書庫の330－399番の図書を地下２階電動書架に移動、地下２階書庫には000－999すべてが集まりました。

移動後
地下２階



図書館研修生を体験して

私は返本作業と学生用資料の選定の二つの研修をさせていただきました。

返本作業は、利用者から返却された本を元の棚に戻す作業です。最初は棚を探すのが大変ですが、すばやく返本できるようになるとだんだん楽しくなってきます。また、普段、学生として利用しているだけでは気づかない、図書館の構造や様々な工夫を知ることができます。

そして学生用資料の選定では、大学や学生の目線に立って、新しく図書館に入れる本が必要か必要でないかを判断します。そのため、図書館の事務システムを使用したり、実際に書架や学内書店に足を運んだりします。難しい部分もありますが、図書館がどのような目標を持って運営されているかなどを学ぶことができます。

（KAYUKAWA, Tomomi：図書館研修生 粥川 知美）

私が図書館研修生に参加した理由は、もちろん図書館で働く事に興味があったという面もあるが、それに加えて図書館を仕事の一例として、「働く現場」というものを間近でみたいと思ったからだ。利用者から見た図書館の仕事はカウンター等表側しか見えないが、実際に職場としての図書館に入ってみると本の選定や本棚の整理、書庫のチェックといわゆる裏方の仕事がたくさんあり、そして裏方を含めた図書館業務全体が「利用者が快適に有意義に図書館を利用できるように」という一点に向かっている事が分かった。また、挨拶や質問をする等自分からコミュニケーションをとろうとすることが大切だと実感した。司書の勉強という点以外でも学ぶことができたように思う。

（SHIBATA, Hidemi：図書館研修生 柴田 英美）

私は現在、図書館研修生として整理業務の実習をしています。図書館の仕事というと返本作業やカウンターでの貸出・返却業務を想像することが多いと思いますが、私が関わっている整理業務は、図書館２階の奥の部屋で行っています。皆さんが利用するOPACの書誌データを管理して、利用者が検索しやすいように修正をしたり、本にラベルを貼って貸出できる形に整えたりして、実際に本が棚に並ぶところまで作業をしています。細かく地道な作業ですがとても大事な仕事なのだと、今回この実習をして気づくことができました。私たちが気持ちよく図書館を利用できるのも、多くの方たちに支えられているからなのだということを強く感じました。

（TODA, Aki：図書館研修生 戸田 安紀）

資料紹介

～秋の夜長にショパンはいかが？～

今年はポーランド出身の作曲家・ピアニストであるショパン生誕200年の年です。ショパン【Frédéric François Chopin】（1810～1849）は、独特なピアノ書法による華麗で優雅な旋律で独創的境地を開き、ピアノの詩人とよばれています。ポーランド民族音楽の特質を生かしたポロネーズやマズルカのほか、ピアノソナタ・前奏曲・練習曲・夜想曲など数多くの名曲が残されているのは、みなさんもよくご存じだと思います。今回の資料紹介では、南山大学図書館のショパンに関する資料をご紹介します。

【図書編】～ショパンを極めよう～

ショパンの生涯を辿る

■ ショパン／遠山一行　請求番号：081K/2418/v.0-507（名古屋）

残された手紙の数々から解き明かされる、ショパンの人間像とは？

■ ショパンとサンド：愛の軌跡／小沼ますみ　請求番号：760K/294/v.20（名古屋）

ショパンとジョルジュ・サンドの出会いから別れまでの物語。

■ ショパン若き日の肖像／小沼ますみ　請求番号：760L/294/v.56（瀬戸）

ショパンの若き日の手紙を中心に、ショパンが青春をどう生きたかが描かれています。

■ ショパン失意と孤独の最晩年／小沼ますみ　請求番号：760L/294/v.64（瀬戸）

孤独のうちに生き、苦悩することの多かったショパンの最晩年とは？

■ ショパン／兼常清佐　請求番号：762/110（名古屋）

昭和15年に出版されたショパンについて書かれた本。昭和初期の音楽に対する考え方も垣間見られます。

■ ショパン／長谷川千秋　請求番号：762/109（名古屋）

昭和18年に出版されたショパンについて書かれた本です。クラシカルな文体の本です。

■ ショパン：その実像／ジョージ・R. マレック＆マリア・ゴードン＝スミス著　木村博江訳　請求番号：762K/331（名古屋）

世界的にも知られながらも、謎に包まれた作曲家ショパンの物語。

■ ショパン／小坂裕子　請求番号：762L/761/v.0-2（瀬戸）

数々の名曲を生んだショパン39年の生涯の物語。

名曲解説～曲に込めた想い

■ ショパン／音楽之友社編　請求番号：760L/530/v.4（瀬戸）

ショパンが残した名曲の詳細な解説です。

■ ショパンとヴァルス／平林正司　請求番号：762K/811（名古屋）

「ヴァルス」の特性や歴史的変遷と、ショパンの「ヴァルス」についての分析。
「ヴァルス」（valse）とは「ワルツ」のフランス語読み。

ショパンあれこれ

■ ショパンについての覚え書き／アンドレ・ジッド著　中野真帆子編訳　請求番号：762L/789（瀬戸）

フランスを代表するノーベル賞受賞作家、アンドレ・ジッドによるショパン論。

■ **大作曲家の世界：ファブリ・カラー版** 請求番号：762K/466/v.3（名古屋）

ショパン・メンデルスゾーン・シューマンをその時代とともに豊富な図や絵で紹介。

■ **ショパンとロマン派の音楽／カルロ・カヴァッレッティ著　目時能理子訳** 請求番号：762K/613/v.5（名古屋）

美しい図解イラストを楽しみながら、ショパンの生きた時代の様式、作品の形式をやさしく解説。

■ **ものがたりショパン・コンクール／イェージー・ヴァルドルフ著　足達和子訳** 請求番号：763K/208（名古屋）

ショパンの生地に近いポーランドのワルシャワで５年に一度催されるコンクールの歴史。第１回から第11回までのコンクールの様子も紹介されています。

【視聴覚資料編】～名曲を聴こう～

南山大学図書館には視聴覚資料でもショパンの作品に触れることができます。貸出可能な資料もありますので、ご利用ください。

名古屋図書館

■ **ポーランドの心～旅立ち：名曲とともに／新日本フィルハーモニー交響楽団演奏** 請求番号：ME/764/1

■ **24の前奏曲他／フレデリック・ショパン，マルタ・アルゲリッチ，ピアノ** 請求番号：MF/763/6

瀬戸図書館

■ Piano concertos　Nos.1&2 ＝ピアノ協奏曲第１番＆第２番 請求番号：C/760L/101

■ ピアノ協奏曲第１番・第２番 請求番号：C/760L/279/v.61

■ Ballades & scherzos ／ Frédéric Chopin 請求番号：C/760L/102

■ The mazurkas ／ Frédéric Chopin ; v.1 請求番号：C/760L/103/v.1

■ The mazurkas ／ Frédéric Chopin ; v.2 請求番号：C/760L/103/v.2

■ The Chopin I love ／ Frédéric Chopin 請求番号：C/760L/120

■ ワルツ集（全曲）＝ The waltzes ／フレデリック・ショパン 請求番号：C/760L/279/v.84

■ ショパン＆リスト／ショパン，リスト 請求番号：C/760L/328/v.20

■ ショパン、ピアノ名曲集＝ Master pieces of Chopin ／ショパン作曲 請求番号：C/760L/328/v.55

■ ショパン：夜想曲集＝ Chopin : nocturnes ／フレデリック・ショパン 請求番号：C/760L/475

■ 26preludes ＝26の前奏曲４つの即興曲／ Chopin 請求番号：C/760L/86

■ Nocturnes：complete recording ＝夜想曲全集／ Frédéric Chopin 請求番号：C/760L/87

今回ご紹介した資料は、ほんの一部です。まだまだ多くの資料がありますのでOPACで検索してみてください。図書館Webページに入口があるデータベース(*)では、関連項目について自分でも調べることができます。この機会に図書館の様々な資料を使いこなしてみてください。みなさんのご利用をお待ちしています。

(*) データベース利用については利用条件があります。詳しくは図書館へお問い合わせください。

【番外編】

2009年のバン・クライバーン国際ピアノコンクールで日本人初の優勝を果した辻井伸行さんは、第15回ショパン国際ピアノコンクール（ポーランド・ワルシャワ）に最年少の17歳で出場し、ポーランド批評家賞を受賞しています。

図書館には、辻井伸行さんに関する図書『今日の風、なに色？』（BROW 2009）、『のぶカンタービレ！』（BROW 2009）も所蔵しています。

（ITO, Kyoko：図書選定委員 伊藤 京子）

2010年度秋学期図書館利用講習会開催のお知らせ

開催期間　9月27日(月)〜11月26日(金)※土日を除く

ひとりでも、
お友達と一緒でもO.K！

◆個人・グループ向け講習会（60分）

「図書館の基本的な利用方法」「資料の活用法」「文献探索のコツ」などをご案内。初めて資料集めをする人、あまり図書館を利用したことのない人も気軽に参加してください！

◆ゼミ・授業単位の講習会（90分）　※授業の担当教員による申込みです。

■初級：図書館の基本的な利用方法・図書館資料の上手な利用方法・館内ツアーなど。

■中級：文献の探し方・入手方法、各種DB（データベース）の紹介・利用方法など授業内容に合わせたプログラムを用意します。

申込方法	先着予約制（受講日時は応相談） 受講を希望するキャンパスのレファレンス・カウンターへ申込書を提出。
申込期限	個人・グループ向け講習会…受講希望日の2日前まで ゼミ・授業単位の講習会……受講希望日の1週間前まで
問合せ先	各キャンパスの図書館レファレンス・カウンター ＊名古屋図書館：閲覧・参考係　(内線1342：illref@ic.nanzan-u.ac.jp) ＊瀬戸図書館：教育研究支援係　(内線4511：s-lib@nanzan-u.ac.jp)

※講習会詳細は図書館Webページ、または館内掲示等でお知らせします。

南山大学図書館　秋の企画展

『作曲家　髙田三郎』〜典礼聖歌　手稿譜を中心に〜

瀬戸キャンパス

期間　2010年10月16日(土)〜2010年10月24日(日)

場所　瀬戸図書館　ブラウジングコーナー　横

名古屋キャンパス

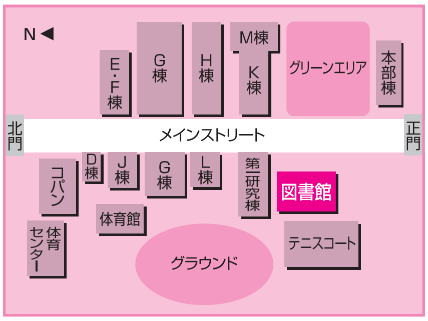
期間　2010年10月26日(火)〜2010年11月7日(日)

場所　名古屋図書館　ブラウジングコーナー

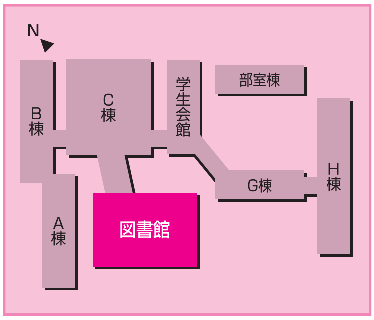
ミサ曲・典礼聖歌の代表的な作詞・作曲家「髙田三郎」による手稿譜をはじめ、当館所蔵の貴重な関連資料を展示します。この機会にぜひ一度図書館を覗いてみてください。

《編集後記》

今年は国民読書年。これからは読書にぴったりの季節ですね。あなたの心に残る本との出会いを求めて、図書館に足を運んでみませんか。(若)



＜名古屋キャンパス＞



＜瀬戸キャンパス＞

南山大学図書館報　デュナミス　No.58
2010. 10. 1 発行
http://www.nanzan-u.ac.jp/TOSHOKAN/
発　　行：南山大学図書館　広報委員会
編集委員：山辺、若林、齋藤
印　　刷：一誠社
〒466-8673　名古屋市昭和区山里町18
Phone:052(832)3707/Fax:052(833)6986
※図書館Webページでもご覧いただけます。